



# WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会会報

No.34 December 10, 2012

- ジョークの心得三か条:
1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。
  2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。
  3. ジョークは簡潔が至上です。

## トークショー

### 下手なジョークも数撃ちや当たる—我らが青春のニューヨーク

宮本倫好×草野 淳



#### ●二人三脚アメリカ留学

**宮本:** こんな題を付けましたが、いかにして皆さんの興味を惹き付けるかという週刊誌の惹句で、今日の話の内容とはあまり関係がないかもしれませぬ。

最初に草野さんと私とがどういう仲か、ゲイかそうでないのか、ということを中心に説明しておきます。今から半世紀前になりますが、同じ職場だった新聞社に留学生制度ができました。1960年代の初めのことで、まだ日本人がそれほど海外に出て行っていなかった頃です。自分の選んだ国で言語、文化、習慣などを身につけよという制度でして、二人ともアメリカへまいりました。会社では私の方が何年か先輩に当たります。

支給される金額は月 200 ドルです。今の金額とはだいぶ違いますが、苦しい生活でした。日本人とは付き合うなという条件がついていましたが、二人は折に触れていっしょに過ごしておりました。

私は既に結婚しておりまして、妻子は日本に置いて行ったわけです。草野さんはまだ独身で

した。二人とも住まいがコロンビア大学の近くだったので、キャンパスの芝生に二人で寝転んで、「我々はどっちかと言えば寝転びあだなあ」などとだじゃれを言ったりして、二年間を過ごしました。

その後は、別々のコースを歩みます。私はロンドン、ニューヨーク勤務になりました。草野さんは後年ニューヨーク支局長になり、その前はアジアが中心でした。ハワイの東西センターで、各国の優秀なジャーナリストたちを集めて研修するという制度がありましたが、草野さんはそこへも派遣されました。ですからアメリカ派であり、アジア派であるということになります。韓国語も著書があるほどよく出来ます。

**草野:** 宮本さんと対談するのはたいへん光栄です。先日の講演の中で、宮本さんは「前座というものは、真打ちより面白くてもいけないが、さりどて、つまらなくてもいけない。だから中々難しいものである」という論を展開されました。私は剣道をやっておりますので、その譬えで言いますと、宮本さんは太刀を

使い、私は小太刀を使うということになるでしょう。太刀は相手に打ち込む役、小太刀は相手を牽制する役、ということですから、今日は宮本さんの牽制役を務めることにいたします。

最初に私どもは、ボルティモアという町の評判を聞きました。ストリップ劇場などが軒を並べている所だということで、それじゃいっぺん行ってみようじゃないかと、二人で相談をしました。バスのターミナルで落ち合って、安宿に一泊して、まずどこが一番面白いか聞いてみようということになりました。



新聞記者の世界というのはちよつとでも先輩だと、絶対服従という世界ですので、宮本さん

が私に「聞いてみる」と命じたものですから、**Which is the most interesting?** と聞きました。変なお兄さんに聞くと引っかかる恐れがありますので、パトロールの警察官に聞いたんです。すると彼は **What do you mean?** と聞き返してきました。私はそこから先は言えなくて困り、**most exciting** とか **sensational** とか、知っている形容詞をいろいろ並べましたら、分かったと見えて **Over there.** と教えてくれました。それでそこへ行ってみました。

勉強家の宮本さんは、ショーの幕間にもニューヨークタイムズを取り出して社説などを一生懸命に読んでおりました。一方私が面白いと思ったのは幕間のかけあいコントです。たとえばこんなのがありました。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、ニューヨークの中心部に近くに、**Flushing** という地下鉄の駅があります。男がポケットからトイレットペーパーを一巻き取り出し、相手が **Where are you going?** と訊ねますと、**Flushing**

と答えます。もちろんこれは、駅名と水洗トイレの **flush** をかけたダジャレですね。(笑い)

センセーショナルな格好をした **prostitute** が、お金を払う段になって、相手の男に **Cash or charge?** (現金かカードか) と聞くんですね。ところが **charge** にはもう一つ別の意味がありますから、それが可笑しいというので、二人で笑ったことがあります。

**宮本:** 日本ではこれだけオープンなストリップははばかれる時代でしたから、「こんなことが許されていいのか。警察はなぜ取り締まらないのか聞きに行こうじゃないか」と、二人で出かけました。ところが相手は **Any problem?** と聞くのです。問題なければいいじゃないかと言われて、二人ですごくぐと帰って来ました。

### ●ゲイの台頭

**宮本:** 60年代のニューヨークとサンフランシスコは、ゲイの本場でした。日本から行った我々は実に奥手で、そういうことは何も分かりませんでした。今風の **coming out** という行為にはこだわりのあった時代でした。たくさんのゲイがいるのですが、おおっぴらには出来ないのです。イリノイ州を除いては州毎に取締りの法律があり、女装して歩いたり、男性同士が手を握り合って歩いたりすると、逮捕されたのです。

さて、草野さんが一人で借りて住んでいたアパートの隣にいた男性が、実はゲイだったのです。私はいまだに彼の名前を覚えています。**Hector** という青年で、沖仲士だったと思います。私は紅顔の草野さんに、「襲われないように気をつけろよ」と警告しました。

私たちの留学目的は英語の習得にありましたが、アメリカ人とルームをシェアするのは、たいへんいい方法だと思いました。新聞に「ルームメートを求む」という広告がよく出ていま

した。実はこれは、ゲイの相手を探しているというのが常識だと後で教えられました。しかし純情な私は何も知らずに、その新聞広告を見てはよく、広告主と面接に行きました。会ってみると、どれも何となく雰囲気がおかしい。最後にコロンビア大学の学生だというりゅうとした身なりの黒人に会いました。やはりちょっとおかしいという感じがしましたので、私は草野さんに、同行して相手の様子を観察してくれと頼んだのです。

面接の終わりに、「私の部屋はどこになるのか？」と聞くと、相手は「何を言ってるんだ。同じ部屋じゃないか」と答えたのです。これでまた疑念が湧きまして、草野さんに判断してもらいました。彼も「ありゃ絶対にゲイだ。今晚にも襲われるぞ」(笑い)と言うものですから、ほうほうの体で逃げ出しました。あのたくましい黒人青年に毎夜組敷かれると思うと、恐怖で凍りつく思いでした。貞操の危機だったんですね。

ニューヨークでは、グリニッジビレッジにあるゲイの喫茶店 Stonewall に警



官隊が踏み込み、彼らが抵抗したのが「ホモ解放元年」と言われる 1969 年夏です。これは私もがニューヨークを引き上げた後の話です。

ともかくこうした経過で、しだいにゲイたちが社会的に認められてきました。性については我々は単純に考えていましたが、LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender) と実はものすごく複雑で、その後のアメリカ社会はいろいろな性の在り方を、みんな認めて行こうじゃないかという方向に進んで行きました。

私たちが滞在していたのは、coming out が当然になる少し前の時代でしたが、ゲイの人数

はものすごく多かったと思います。やがて、AIDS という病気が蔓延してきて、いったんゲイに対する偏見が助長されるようになりました。

### ●ゲイ社会とジョーク

**草野**：ここで先へ進む前に、ゲイにまつわる典型的なジョークの一つをご紹介します。お配りしたハンドアウトをご覧ください。

Twelve priests were about to be ordained. The final test was for them to line in a straight row in a garden, totally nude, while a sexy and beautiful big-breasted nude model danced before them. Each priest had a small bell attached to his weenie and they were told that anyone whose bell rang when she danced in front of them would not be ordained because he had not reached state of spiritual purity. The beautiful model danced before the first candidate, with no reaction. She proceeded down the line with same response from all the priests until she got to the final priest, Carlos. As she danced, his bell began to ring so loudly that it flew off and fell clattering to the ground. Embarrassed, Carlos took a few steps forward and bent over to pick it up. Then all the other bells began to ring.

ordain というのは、牧師さんたちが一定の位に就くための資格試験のようなものです。

**宮本**：補足いたしますが、お金のない我々は YMCA によく泊まったんですが、その時にこんな冗談めいた注意を受けました。シャワーを浴びていて、石けんを床に落とすことがあっても、それを拾ってはいけないのです。この意味はお分かりでしょうか。

シャワールームにはドアのないものが多いので、しゃがんだ瞬間、後ろが無防備になる

ということです。今のジョークには、それに共通したところがあると思います。

さて、次をご覧ください。

George and Elton, a pair of homosexual lovers, went hiking. George ducked behind a bush when he felt nature calling. Suddenly he called out, "How terrible! I miscarried! I miscarried! Here is a little arm! There is a little leg! This is so awful!" "Shut up you idiot!" screamed Elton, "You just shit on the frog!"

男二人がいて、そのうちの一人（女形）が尿意をもよおし、カエルにおしっこをかけたのを、流産したと思い込んだという、何ともばかばかしいジョークですが、これもゲイの世界でこそ成り立つ話です。

先程も申し上げましたが、ゲイに関係した病気に AIDS があります。この流行によって、ゲイに対する偏見が拡大しました。現在では AIDS は治療可能な病になりましたので、それにとまってゲイも是認される方向に向かっています。

次のジョークはその事実を背景にしております。

A woman picked up the phone. On the other end was her husband's doctor. "We mixed up your husband's test results. He's either Alzheimer's Disease or AIDS." "What shall I do?" wailed the woman. "I tell you what," said the doctor. "Send your husband out for a walk. If he comes back, don't sleep with him."

亭主がエイズかアルツハイマーのどちらかに罹っていると医者に言われた妻が、「どうしたらいいでしょうか」と訊ねると、「散歩に出しなさい。ちゃんともどって来たら、（アルツハイマーではなく、エイズなんだから）二度と、亭主と寝ないようにしなさい」という答えが返って

来たという話です。

さて昔の話にもどりまして、帰国後しばらくしてから、今度は特派員という仕事で、



私はニューヨークへ戻りました。1976年には bicentennial、つまりアメリカ独立 200 年祭があり、ニューヨーク港に世界各地から帆船や軍艦が集まって来るといったイベントが行われました。

日本からやって来た自衛艦が係留されているところへ、近くを航行していた英国の豪華客船クイーンエリザベス二世号が、何かの拍子に衝突するという事件が起きました。これは客船の方に責任がありましたので、船長が自衛艦に謝りに出かけました。すると艦長が大変ユーモアのある人で、「いやいや、女王陛下にキスして頂いて、光栄です」と答えたものですから、気の利いた受け答えだということで、現地や英本国の新聞記事に取り上げられました。

そこで私は、「先端と先端だったからよかったものの、もし女王陛下の名の客船が日本艦の後尾に衝突したらどうなっていたらろうか」と考えたものです。ご存知 kiss my ass という汚い罵り言葉からの連想です。

先日インターネットを覗いておりましたら、カリフォルニア州知事だったシュワルツェネッガーが、州議会でアミアーノという議員に You're a liar. と言われ、かつとなって、You kissed my gay ass. と言り返したという記事を見ました。そこで、知事はゲイなのかということが話題になったようです。彼には子どももおりますので、なぜそんな返答をしたか、私には分からないのですが、まあそんな品のないことを次々に思い出しました。

## ●政治家とジョーク

**宮本：**さて、ここで生来の品をとりもどすために話題を転じ、政治家とジョークについて申し上げることにいたします。

私どもはケネディ大統領が暗殺された 1963 年に、たまたまいっしょにニューヨークにおりました。ニューヨークには同じ社の特派員がいたのですが、なにしろひっくり返るような大騒ぎになりましたので、我々留学生も取材の手伝いに駆り出されました。

ケネディ大統領に限りませんが、「アメリカの政治家はよくジョークを解するなあ」と私は日頃から感心しております。その点では、日本の現在の政治を見ても、ユーモアのセンスがある政治家はゼロに近いと思います。

昔、トマス・デューイーという弁護士がおりました。彼は政治家を志していたのですが、友人に「お前はユーモアのセンスがない。だから政治家には向かない」と言われました。そこで発奮して、10 年間ジョークの勉強をし、それから政治家になりました。ニューヨーク州知事を務め、共和党から二度大統領候補に選ばれています。それほど政治家の資質として、ユーモアは重く見られているのです。

ハンドアウトをご覧ください。

Jack Kennedy used to begin a speech with a joke. He said, "I was almost late here today, but I had a very good taxi driver who brought me through the traffic jam. I was going to give him a large tip and tell him to vote Democratic and then I remembered some advice Senator Green had given me, so I gave him no tip at all and told him to vote Republican."

この形のジョークはよくありまして、熱烈な共和党支持者だった人が死を前にして、自分はこれから民主党支持者になると宣言した。何

故かと問われたのに対し、彼は、「どうせ死ぬんだったら、一人でも民主党員の数を減らしてやりたいんだ」(笑い) と答えたというものです。

もう一つ行きましょう。

The British premier bathing in a White House tub while amiably chatting with a nearby President F. Roosevelt. Rising from his bath, Churchill is at first covered by a towel, which he accidentally drops, appearing naked before the President. "As you can see, Mr. President, I have nothing to conceal from you."

これはだいぶ有名になった話ですので、いくつかのヴァリエーションがあり



ます。私が以前読んだのは、大西洋上の船上で米英巨頭会談をしていた際に、ルーズベルトがチャーチルの部屋を訪ねて行きました。ドアをロックすると、チャーチルはたまたま入浴中でしたので、あわてて腰にタオルを巻いて、ドアを開けましたが、その拍子にタオルがずり落ちました。その時、チャーチルがとっさに言ったのが、"As you can see, Mr. President, I have nothing to conceal from you." だったという形で私は憶えておりました。

「閣下と私の間に隠すべきものは何もございません」と当意即妙で言ったというのですから、見事な機知だと感心いたしました。

**草野：**チャーチルが出ましたので、私からも一つ申し上げます。

One day when he was addressing Parliament, another member whispered to him that his fly is open. The story goes that Churchill answered pleasantly, "Oh, that's

all right. The bird doesn't fly out of the nest anymore.”

議会で隣席にいた議員が「社会の窓が開いていますよ」と教えてくれたのです。これに対しチャーチルは、「いいんだよ。もう年で、開いていても、中にいる鳥が飛んで行くことはないんだから」と。ズボンの前開き意味の fly と、動詞の fly を掛けた、しゃれだったのです。

先程、ケネディ大統領が **begin a speech with a joke** とありましたように、本当にアメリカではスピーチの初めにジョークが来ます。これは日本人にとっては中々難しいことです。あるシンポジウムに参加した際に、こんなことがありました。最初に司会者が、「それでは〇〇先生からご意見を伺います」と言って、とある人を指名しましたら、その人が立ち上がって **The bird that flies first is likely to be shot.** と言ったのです。最初に藪から飛び立つ鳥は撃たれやすい。つまり「最初に発言する者は非難を浴びやすい」と断ってから、話を始めたのを聞いたことがありました。だから、後から発言する方が気楽だという訳です。なかなか気の利いた口火の切り方だと思って感心いたしました。

**宮本：**知的な面でいろいろ批判のあったジョージ・ブッシュ大統領だったのですが、イラクでの記者会見で、現地記者の一人に靴を投げつけられました。それを危うくかわしてから、コメントを求められると、「あれは十二文半の靴だった」と答えました。ポイントを咄嗟にかわして、意表を突く面白い答をする。私は、彼は実はたいへんユーモアのセンスがある大統領だったと思いました。

**草野：**大統領と言えば、私はレーガン大統領のことで思い出すことがあります。彼は一度暗殺されかけたことがありました。弾丸を胸から摘出する手術を受けたのですが、その執刀医に向かって、「あんたが民主党派でないことを祈

るよ」と言ったというのです。「共和党の大統領を殺すようなことはないだろうね」とふざけて見せたのです。このジョークはニュースにもなりました。

## ●THE DUCK STOPS HERE

**草野：**ジョンソン大統領関係でこんな話があります。ジョンソンという人は、ケネディが暗殺された後で、副大統領から昇格した人です。暗殺があったのはテキサス州のダラスでしたが、同じテキサス州にジョンソン所有の **LBJ Ranch** と呼ばれる広大な牧場がありました。私が訪問したいと言うと、幸いに許可が下りまして、シークレット・サービスみたいな人が案内してくれました。

牧場の中に入って行きますと、池にカモがたくさんおりました。そこで私が、「カモがたくさん来るんですね」と言いましたら、案内人が **The duck stops here.** と言ったので、私は思わず吹き出したのです。彼は自分のジョークが異国の人間に通じたのが満足そうでした。さて、この文のどこが面白いかということは宮本さんから聞いてください。

**宮本：**なぜこれが笑いを取れるかと申しますと、その裏に、**The buck stops here.** という名言があるからです。

**buck** とは普通には牡鹿という意味です。以前、日本の民放の記者がホワイトハウスを訪問して、トルー



マン元大統領の部屋へ通されました。その机の上に **The buck stops here.** と書いてあったので、「ホワイトハウスの庭には以前は牡鹿が遊びに来たのです」という記事を本社に送り、放送されました。それを聞いて、私は「特派員がこんなレベルでは困るなあ」と思いまし

た。それは buck の意味が全然ちがうからです。

ポーカーをやる時に、親になる人の前に印として、柄がシカの角で出来たナイフをよく置きました。それが buck です。自分が親になるのが嫌だったら、その buck を次の人にパスします。そこから、to pass the buck～（責任を回避する）という熟語が生まれました。反対に The buck stops here と言えば、「責任を他の人に譲れない、最終責任は自分が取る」という意味になります。

そこでトルーマン大統領は、自分の決意を示すために、自室に The buck stops here. と刻んだ札を机の上に置き、これが人口に膾炙しました。彼の娘さんが父親の伝記を書いた時にも、タイトルにこの句を使いました。このことを知っていた草野さんが、LBJ Ranch で案内人に The duck stops here. と言われた時にワッと笑ったので、相手は我が意を得たり、と喜んだのです。

ジョーク力というのは、自分でいいジョークを言うだけではなく、相手が気のきいたジョークを言った時に笑える力だなあ、と思いました。  
**草野**：少しだけ補足しますと、トルーマン・ライブラリーには、そのレプリカが陳列されていました。カーターが大統領になった際、それをホワイトハウスの自室に移して、自分のデスクの上に置いたというのです。



ところで、buck にはもう一つ、「1ドル」という意味もあります。それは、西部開拓時代に、ポーカーの親を示す際の印としてナイフではなく、silver dollar を置いたことから出たスラングだそうです。

私はある時、シャイアーンという町へ行ったことがあります。一人でバーへ入って、バドワ

イザーのビールを注文して、それが出て来た時に、バーのお兄さんが buck'n half と言ったんです。初めは何のことか分からなかったので聞き返しますと A dollar and half と言い直してくれたので、分かりました。

翌日また別のバーへ行って、同じバドワイザーを注文し、出て来たところで、早速 Buck'n half? と聞きましたら、Yeah. という答えが返って来て、今度はめでたく通じました。こんなふうになだちに応用してみることで英語を学習して行ったものです。

### ●失敗は成功の始まり

**草野**：もちろんこんな成功談ばかりではありません。失敗談もありました。ある時、悪い先輩からドラッグストアへ行ってコンドームを買って来いと命令されました。しょうがありませんから、ドラッグストアに入行って用件を言いましたら、What kind of size? と聞かれました。バリバリのニューヨークのあんちゃんにそう聞かれたものですから、つつられて、The smallest one. (笑い) と答えてしまいました。するとあんちゃんに、大声で Hey, you, the smallest one! とからかわれてしまいました。(笑い)

そこでまた別のジョークを思い出しました。アメリカの女子大生が夏休みにドラッグストアでアルバイトをしました。そうしたら、ひとりの中年の紳士が入って来て、コンドームをくれと言いました。そこで彼女は What size? と訊ねました。するとその紳士は顔を赤らめてそのまま店を出て行きました。彼女の質問の真意は、「何個入りのものですか」ということだったのですが、紳士は別の受け取り方をしたようでした。彼女は店主にたしなめられたそうですが、そのことを正直に「私の失敗でした」と、ニューヨークタイムズのコラムに投稿したそうです。

**宮本**：それで思い出したことがあります。ある人がコカコーラの本社に現れて、売り上げを増やすいいアイデアがあるが買わないか、と持ちかけました。自分が提案するアイデアを実行すれば、必ず売り上げが増えるから、増えた分の何パーセントかを自分に支払うという契約を先にしてくれ、というものでした。

コカコーラ社では半信半疑でしたが、ともかく契約をしたそうです。そこで彼が明かしたアイデアというのは、列車の駅などで「売り子が売り歩く時に、客に **Large one or small one?** と聞いているけれども、**Large one?** とだけ訊くようにしなさい。すると、たいていのお客は急いでいるから **Yes.** と答える」というものでした。この提案を受け入れたコカコーラ社は、はたして売り上げを大幅に延ばしたということです。ですから、**large** とか **small** とかと言っても、いろいろな使い方があるわけです。(笑い)

**草野**：そろそろ最後にいたしましょう。アメリカでも剣道の稽古をしておりました。ある時、帰りに車に乗せてくれた人がいましたので、剣道着・袴のままの姿で車に乗って、マンションまでその格好で帰ってまいりました。するとロビーに五、六歳くらいの小さな子どもがいて、私の格好を見て **Are you samurai?** と聞くのです。サムライか、と言われては男心をくすぐられ、**No** とは答えたくありませんでしたし、さりとて **Yes** と言うわけにもいかず、苦しい思いでしたね。

それから何年かして帰国してから、渡辺謙がトム・クルーズと共演した *Last Samurai* という映画がたいへん評判になりました。映画がもっと早かったら、あの時、**Yes, I'm last samurai.** とやり返せたのにと悔やんでいる次第です。

**宮本・草野**：そろそろ時間となりました。有難うございました。(拍手)

(2012年11月17日、第34回研究発表会にて)

## 第15回ジョーク・コンテスト

### MCの記

安藤 雅彦

会場が駒場東大前の日本近代文学館に移っての初例会。緑豊かな環境だが、生憎の雨天もあり、道に迷ったり、遠回りを余儀なくされたりした会員もあったようだ。

これを機にジョーク・コンテストもバージョンアップすることになった。まず出品一覧&採点表のプリントを配る(もちろん出品者欄はブランクだが、なにを隠そうMCだけは出品者が分かっている)。次にMCが出品番号1から24までを順次音読する。この間はコメントや質問、そして笑い(ニヤリ、クスクス、ワッハッハー)も厳禁。要するに他の人の投票行動に影響する可能性のある言動を慎むことが大切で、MCは違反者がでないように睨みをきかす。

続いて、まだ笑いのツボが不明なものもあるが、第1回投票(VBD=voting before discussion)を行う。1人3票までで、結果を白版に表示する。1位が7票で出品番号14(安藤)、同率2位が6票で20番(深澤さん)と22番(服部さん)。

そこで従来のように出品番号1より質疑応答をする。応援演説歓迎で、匿名自選も許される。そして第2回投票(VAD=voting after discussion)を行う。これも1人3票までで、優・入賞はVBD+VADの合計得票できめる。

**優勝** 出品番号22、服部さん、6+7=13票  
Helen, teaching her parrot to talk: Repeat after me, 'I can walk'.  
Parrot: I can walk.  
Helen: I can talk.



Parrot: I can talk.

Helen: I can sing.

Parrot: I can sing.

Helen: I can fly.

Parrot: No, you can't! You are a liar!



佐川さんが強力な応援を展開（クリントン大統領のオバマ応援演説もかくやと思わせた）。このオウムは賢くて、オチに至る前の walk から sing までもオウム返しに真似しているのではなく、自分の考えで発言しているとの趣旨。

後述する大波賞作品のため、VAD では多くの出品作が VBD より票を減らしたが、本作のみがしぶとく票を伸ばした。

**2位** 出品番号 14、安藤、7+4=11 票

A small boy swallowed some coins and was taken to a hospital. When his grandmother telephoned to ask how he was, a nurse said, 'No change yet.'



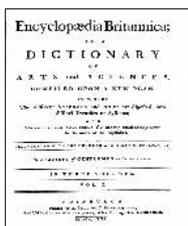
VAD の得票が大幅減だったが、VBD の貯金が効いて 2 位に滑り込み、最も解りやすいジョークと言うことになる。相変わらず出品者は和訳不能ジョークにこだわっている。

**3位** 出品番号 5、相原さん、5+5=10

Classified advertisement actually placed in U.K. newspaper.

FOR SALES BY OWNER.

Complete set of Encyclopedia Britannica, 45 volumes. Excellent condition, £ 200 or best offer. No longer needed, got married, wife knows everything.



コンテスト優・入賞の常連で、自他共に艶物の権威と認めるが、今回は新境地開拓を目指したか？

**大波賞** 出品番号 15 上沼さん 0+8=8

Mary, Are you 2 months pregnant? Why not. I



started wearing contact lenses 3 months ago.

VBD で 0 票のペケから、VAD では 8 票のトップ。これを服部さんが名づけて大波賞。土屋さんのツボの解説に一同「あーっ、そうだったのー」。コンタクトにして「男が良く見えるようになった」のではなく、メガネから替えて「女っぷりが上がった→妊娠した」のねと納得。

閉会後の上沼さんのコメント：これはアメリカのコンタクトレンズ会社の営業マン研修に使われるジョーク。

大波賞が出たことで、新バージョンの仕掛け人である佐川プロデューサーが大喜び。

(VBD と VAD の結果が同じだったら、かなりガックリだったでしょう！？ 上沼さんと土屋さんに熱烈感謝。)

出品番号 7 については、土屋さんの解説があつたが、僕にはイマイチ笑いのツボがピンと来なかった。次回の例会で出品者の新堂さんに真意を尋ねましょう。

"It's an excellent proof, but it lacks warmth and feeling."

MC の立場上、応援演説はできませんでしたが、僕が個人的に好きなタイプのジョークは：

When my wife sings I always stand outside on the porch. I don't want the neighbors to think I'm beating her (田村さん)

D V 被害者の悲鳴のような歌なので、夫はアリバイを示さねば。



A little girl asked his father, 'Do all fairy stories begin with "Once upon a time"?'

'No, darling,' said her father. 'A lot of them begin with "If I'm elected".' (豊田さん)

米の大統領選挙も、日本の総選挙も、公約はまさにおとぎ話。

Wife asks husband,  
“How many women  
have you slept with?”



Husband proudly replies, “Only you, Darling.  
With all the others, I was awake.” (小池さん)  
率直過ぎる夫。

僕のタイムマネージメントが悪く、だいぶオーバーランしてしまい、総合司会の豊田さんをはじめみなさんにご迷惑をかけました。ごめんなさい。

今後のやり方として思うところは：

- 1) 次回より中島さんのご好意により OHP を使えと思いますが、やはり出題一覧&採点表(出品者欄は空白)を冒頭に配る。
- 2) 2 回投票制度は時間を喰うので、出品数を 20 個以内に抑える (一人一個)。
- 3) セッションの最後に出品番号 1 から出品者を発表し、各出品者 (希望者のみ) に 30 秒以内でコメントする機会を与える。

### 第 15 回ジョーク・コンテスト出品募集

#### ● 要領：

1. 出題は、**お一人一題**とします。
  2. 長さは、**20 WORDS 以内**とします。
  3. 必要と思われる場合には、イラスト・写真などを添付してください。
  4. コンテストは、**2013 年 1 月 19 日(土)**の研究発表会で行われます。
  5. 結果は *We, Jokers* No.35 Joke Contest Supplement 紙上でも発表されます。
  6. 当日不参加予定の方も出品できます。
- 宛先：[mmsagawa403@s6.dion.ne.jp](mailto:mmsagawa403@s6.dion.ne.jp)
  - 締め切り：**2013 年 1 月 6 日(日)**

★お断り 今回は「QUESTION BOX の挑戦」を実施しませんでした。

### 第 35 回研究発表会のご案内

- 日時：**2013 年 1 月 19 日 (土)**  
**13:30~16:05**
- ★いつもより **30 分**早くなっていますので、ご注意ください。
- 会場：**日本近代文学館** (2 階会議室)  
(東京都目黒区駒場 4-3-55、駒場公園内)  
電話：**03-3468-4181**
- 交通：京王井の頭線「駒場東大前」駅 (渋谷駅から二つ目) 徒歩 7 分。地図は、「日本近代文学館」の HP をご検索ください。  
本館は目黒区の施設である「駒場公園」の中にあり、初めての方は迷う場合もありそうです。その際には、ご遠慮なく、上記にお電話をかけてお訊ねください。
- プログラム
  - ① 第 15 回ジョーク・コンテスト  
**13:30~14:30** (復活!! パワーポイント)  
司会=相原悦夫 会員
  - ② 新年懇親会 **14:35~16:05**  
司会=安藤雅彦 会員  
会場=同館 1 階 **CAFÉ BUNDAN**
- 参加費：会員・非会員とも **2,500 円**  
(例会費 1,000 円+懇親会費 1,500 円)
- **ドリンク、おやつのお持ち寄り大歓迎です!**
- 問合せ先：[renraku@eigojoker.com](mailto:renraku@eigojoker.com)

### PHOTOGENIC JOKE

I bet u will see the pic twice!



提供 = 舟崎正敏会員

### WE, JOKERS No.34

英語のジョークを楽しむ会 (Joke-Loving Club) 会報

発行日：2012 年 12 月 10 日

発行人：世話人代表 宮本倫好

編集人：佐川光徳

問合せ先：[renraku@eigojoker.com](mailto:renraku@eigojoker.com)